

## 週日の説教

金 大烈 神父 2011年7月22日(金)

### 《悔い改めの涙の体験なくして復活には会えない》

今日のように「マグダラのマリア」の祝日に思い浮かぶある女性がいます。彼女は私が叙階されて間もないある日、教会を訪ねて来て「私は求道者の勉強をしたいのです。」と言って自分のことを話してくれました。彼女は今ソウルのある大学の先生で、今まで無神論者としてやってきたということです。今の年齢は58歳。「一生懸命に神様の御言葉を勉強したいのです」ということでした。

私はさっそく求道者クラスに案内して彼女の求めに応じて下さいと要理の先生に紹介しました。1年間、毎週2、3回勉強会がありました。恒例になっていることですが、洗礼を前にした人達がいつも私との面接を行います。その時も彼女の番が来て私の前に座りました。「どうですか。心に届きましたか。思ったように行きましたか。」と私が訪ねました。「はい」としばらく沈黙して、彼女は色々と個人的な難しさにぶつかって、自分の能力で何とか解決しようとして頑張ってきたことを話してくれました。そして、「私は神の存在は絶対認めなかった者です。けれども一年前に勉強を始め、ミサに与り色々なことを考えて今は確信を持っています。イエス様を私の救い主としたいのです」という告白でした。その後「洗礼名には何がほしいのでしょうか」と私が聞きました。そうすると彼女は全くためらうことなく「マグダラのマリアになりたいのです。」と答えたのです。私は「そうですか、ではそのようになさってください」と言ったわけです。

大体の親が、子供が生まれてその子に洗礼を授ける時、霊名を「マグダラのマリア」とは名付けません。「マグダラのマリア」という洗礼名を持っている人は、大人になって自分が選んだ人が殆どです。なぜなら「マグダラのマリア」と言えば罪びとの代表です。人から指差される代表的な人物です。ですからある程度聖書の物語が分かる人は「マグダラのマリア」になりたいとは言わないのです。けれどもこのような考え方は全く福音と逆の愚かな考え方です。本当にイエス様の御心が分かるようになった時、自分がどのような者かと悟ったら「マグダラのマリア」という洗礼名がどの位素晴らしいか、どの位模範として従わなければならないかよく分かることになります。私は個人的に好きな洗礼名です。そしてこの「マグダラのマリア」という洗礼名は、全てのカトリック信者の方に自分を無くして考えて頂きたいくらい素晴らしい名前だと思います。

マグダラは人名ではなくマグダラと言う地方の名前でしょう。ですから「マグダラのマリア」とは、マグダラ地方出身のマリアを意味します。

皆様にちょっと質問させていただきます。涙の種類にはどんなものがあるでしょうか。思い浮かぶのは喜びの涙、感謝の涙、慕う心からの涙、もどかしい心の涙、それに悔し涙、怒りの涙。そして皆様が何よりも体験しなければならない涙が“悔い改めの涙”です。この“悔い改めの涙”の体験がなかったら、私たちはイエス様に「本当に分かっています」と言う告白は出来ません。この体験が誰よ

りも出来た方が「マグダラのマリア」でした。そのような存在ですので沢山の指差された、罪を犯した存在でも、私たちの信仰の一番大事な体験、復活の体験を、イエス様は復活されて初めて彼女にその素晴らしさを見せて下さったわけです。私たちはこのような“悔い改めの涙”の体験がなかったら、ある意味では絶対に復活の体験は出来ません。私たちにとって基本的な霊性かも知れませんね。

皆様、やはり涙を見せるのは恥ずかしいですよ。しかし神様には、神様の前では恥を感じてはいけません。色々な涙を流す機会があるのですが、その中で本当に正しく行くためには、正しく自分を作るためには、何よりも悔い改めの改心の涙を体験しなくてははいけません。もちろん、人間の量りで測れば大きい罪があり小さい罪があります。深い罪があり浅い罪があります。しかしそれは何の意味もありません。罪を感じるのは自分です。本人です。誰かが「それは罪ではないよ」と言っても自分にとっては「大きい罪です。自分の心を痛めるだけではなく神様の心を痛めています。」と思ったら、そこから改心が始まります。どんなに大きな罪でも「こんなこと誰でも犯す罪じゃないの、大丈夫よ、大丈夫よ。」と言いながら自分を慰めてしまうとその人は絶対神様には出会えません。

皆様、「マグダラのマリア」はイエス様が『婦人よ、なぜ泣いているのか。誰を探しているのか。』と声をかけられても園丁だと思っていたのでしたね。しかし『マリア』と言われてイエス様だと気が付き「ラボニ」「先生」と告白の叫びを出します。その時から彼女の体験した涙は喜びの涙でした。イエス様の墓を周りながら出した涙は悲しみの涙だったでしょう。しかし、復活されたイエス様に出会ってから出した涙は、100パーセント純粋な喜びの涙だと思います。私たちが一番求めるその喜び幸せ、その涙は、復活されたイエス様に出会わなくては可能ではないのです。

あのアッシジのフランシスコ聖人が最後に祈った祈りも「憐れんでください。慈しみ深い神様、私は罪人です。憐れんで下さい。」というものでした。私たちは死ぬ時まで誰でもが「マグダラのマリア」です。

結局、私たちは“改心の涙の体験なくして復活に会えない”。ということです。そして真の喜びも体験出来なくなってしまうことを今日の福音（ヨハネ 20・1-2、11-18）を通して考えてみましょう。

ありがとうございました。